

ナサノフ腺フェロモンの使用法

1：はじめに

分封は養蜂家にとっては大きな問題のひとつである。これを防ぎ、または処置をするのに十分な時間がないのが常である。合成の定位フェロモンが製品化されて市販されている。分封を防ぐことはできないが、分封群の多くを捉えて、分封による蜂と蜂蜜の損失を抑えることができる。地域内の他の蜂群からの迷い分封群を捉えることも可能になる。ただしこの手の分封群はヘギイタダニがいる可能性があるので注意が必要。

2：基本情報（予備知識）

ナサノフ腺フェロモンと呼ばれる臭い物質が働き蜂の尾端にある腺から放出される。これはある種の定位フェロモンである。この臭いを発散させるために、蜜蜂は臭腺のある腹部を持ち上げ、激しく羽で旋風する。これは「におい旋風」と呼ばれ、養蜂家はこれをもっぱら巣門口で観察する。群が事故で無王になった場合、処女王が交尾に外界に出た時などは、これをうまく呼び返そうとして盛んにする行動である。また空中移動中の分封群が集結始める時、先に到着した蜂が他の蜂を引き寄せるためにこの「におい旋風」をする。化学的に合成されたナサノフ腺フェロモンも、分封群を空巣箱や分封群捕獲箱に引きつけることができる。製品のルアー（おとり）は小さなチューブとキャップからできている。フェロモンはその内部にあって、チューブの壁を通じて放散される。ナサノフ・フェロモンを使って分封群を捕捉する実験では注目すべき結果が得られている。ナサノフを使ったトラップ（仕掛け）が数個用意されればその50～80%は分封群によって占拠されると言う。

3：準備とトラップの設置

分封群を引きつけるには、巣脾の入った巣箱を準備して巣門を解放して南向きに置く。分封群を捉えるためには巣箱は蜂場からできるだけ遠く、250m以上離れたほうがよい。盗蜂や蟻を惹きつけるので蜜巣脾を使わない。新しい巣脾のほうが蜂病のリスクが少なく、巣虫も寄せ付け難い。実験によれば、地域内の根拠のある分封発生数が不明と言う条件付ではあるが、スォームキャッチを挿入した巣箱の占有率は平均60%であった。

4：ルアーの使い方と保存方法

- ①使用にあたって、キャップは開けずそのままに、小さな輪を作ってチューブの上部を結び、ピンなどで巣門近くに固定する。
- ②使用前後は冷凍保存する。
- ③ルアーは野外使用で1シーズン使用可。途中で分封群を捉えた後はもう一度使える。ルアーを追加すれば、さらに誘導性は高まる。
- ④素手での取り扱いは避けたほうがよい。幼児の手の届かない所に保管する。

5：次のような場合にも試してください

- ①食品加工工場などで蜜蜂が甘味料に惹きつけられ、迷惑がられるとき。
- ②蜂場近くのプールや泉水に蜜蜂が集まる時。
- ③ビニールハウスに授粉用の蜜蜂を最初に導入した時に使用。導入直後の蜜蜂が巣箱にもどる率を高める。
- ④早春、給与された花粉パテの摂取を促進して、蜂児圏を広げ、蜂群増殖に役立つ。
- ⑤分封直後の群が低木の枝などに集合しそうな時は、2次分封で営巣場所へ飛び立つ前に簡単に捉えることができる。
- ⑥スウォームキャッチとビーブーストと一緒に使うことで、分封群や迷惑蜂（前述）をより強く惹きつけることができる。同様に分封群の集結を早め、落ち着かせる。

6：合成ナサノフ腺フェロモンの利用方法について（補足所見）

本来この製品は日本蜜蜂の愛好者たちが「待ち蜂」と呼ばれる方法で野生分封群を捕獲するのと同じような意図を以てカナダで開発されたものであって、必ずしも養蜂家自身の蜂場からの分封群捕捉が確実にになると言うものではない。「待ち蜂」と言うのは木箱を分封群の飛んできそうな山中各所に配置しておき、後日見てまわるというやり方である。巣箱の内部に蜜蝋を塗っておくと成績が良いそうで、スウォームキャッチはまさにその蜜蝋に相当する物と言える。

養蜂家自身の蜂場から飛び出した分封群をキャッチする目的のために、250m以上離れた場所に点々とトラップの巣箱を配置するようなことは、カナダと異なり、狭い我が国ではあまり現実的ではない。実行可能な場所はかなり限定される。したがって最も実効性がある使用法は発生直後の分封群の収容であると思われる。この点ではビーブースト（女王蜂フェロモン）も単独でも効果があるので、説明書にあるように併用すれば相乗効果が期待できる。その際、説明書にはないが、直射日光のあたる日向に設置するのは禁物。